

## “あの子はダメだ・・・”

“あの子はダメだ！”という言葉を書いて皆さんはどういう感じを受けますか？おそらく誰かが“あの子”を否定している、悪口を言っていると感じる人が多いのではないのでしょうか？実はこの“あの子はダメだ！”という言葉を使ったのは自分です。自分がソフトボール部の顧問をしていたとき、チーム全体が打てなくて、点数を取ることができず、負けが続いた時期がありました。総体の日も近くなってきたときに副顧問の先生から、特に打てなかった4番バッターの子（この題のあの子）について「打順を変えてみれば」とか、「他のメンバーを代えてみようか」と提案されたことがありました。その時に自分が“あの子はダメだ！”という言葉を使いました。そして、その言葉をたまたま通りかかったソフトボール部ではない同じクラスの生徒が聞いていたみたいで、“あの子はダメだ”って先生が言っていたよと、その子に伝え、その子は泣きながら他の部員のところに相談に行き、その部員たちで自分のところに“あの子はダメだ”って言ったのかどうかを確認しに来ました。もちろん自分は“あの子はダメだ”って言ったよと答えました。ただ、その子を4番から違う打順にしたり、その子の代わりに他のメンバーに代えるのがダメだという意味で“あの子はダメだ！代えないよ”と言ったことを伝えました。そうすると部員の子たちは“なんだ、やっぱりそうか”と言って納得していました。その4番の子は、朝も放課後も休みの日もいつも一番にグラウンドに来るし、ちょっとした隙間時間もバットを振ったりなど、とにかく一番真面目でよく練習するので“この子が一番努力して、真面目に練習に取り組んでいるんだから、打順（4番）もスタメンも代えるわけないだろ”と付け足しました。それを聞いた部員たちは“そうだよね”と言って、安心して帰っていきました。この時、自分は、言葉を他人に伝えるのは気を付けないといけないと改めて感じました。自分とソフトボール部の子たちとは、信頼関係ができていたので、“あの子はダメだ！”という言葉を使った自分の真意を聞きに来てくれたのですが、そうでなければどうなっていたかと考えると、総体どころではなかったと思います。たまたま通りかかって“あの子はダメだ！”という言葉を書き伝えた生徒も悪気があったわけではないと思います。ただ、“あの子はダメだ！”という言葉だけを切り取って伝えたり、その言葉の真意を知らないで伝えたことはどうだったのかと考えると決して良いとは言えないと思います。これは、皆さんの日頃の学校生活でも同じです。他人が言っている言葉を切り取ったり、真意を確認しないで伝えることは、時に一生取り返しのつかない事態になることもあるのです。特に否定的な言葉ととらえられるものは注意が必要です。最近は、SNS等でもこのようなことがたくさんあります。自分もそうですが、言葉でもSNSでも人に何かを伝えるときにはしっかり考えてからにしたいものです。